News Release



平成23年3月25日

各報道機関文教担当記者 殿

大学・県・市と学識委員などを交え

3/28 金沢大学工学部跡地利活用検討委員会を開催

金沢大学工学部跡地について、大学・県・市のほか学識委員などを交え、跡地の 利活用方針を検討することを目的に、「第3回金沢大学工学部跡地利活用検討委員 会」を開催しますので、お知らせします。

開催日

平成23年3月28日(月)10:30~11:15

 金沢大学角間キャンパス 本部棟大会議室(6階)

第1回及び第2回の検討委員会を踏まえての共通認識

委員名簿

川上 光彦	金沢大学理工研究域教授
森 俊偉	金沢工業大学環境・建築学部教授
野脇 格	所在校下町会連合会長
植村 哲	石川県企画振興部長
森 源二	金沢市副市長
※古川 仭	金沢大学理事 (財務担当)

※印は委員長

【本件照会先】

財務部財務企画課副課長 高桑

Tel: 264-5042

【担当】

総務部総務課広報戦略室 松本

Tel: 264-5024

第3回金沢大学工学部跡地利活用検討委員会座席表 事務局6階大会議室

※カメラ撮影・写真撮影の注意 開会発言後の委員長挨拶までは自由ですが、 事務局側より後方から撮影していただくよう 石川県 町会連合会長野脇所在校下 川上金沢大学教授 餟 報道関係 古 川金沢大学 理事(財務担当) 蠝 金沢大学 寷 赘 ji その後の護事が始まりましたら、 ご協力願います。 企画振興部長 拖村石川県 森金沢市副市長 金沢市

第3回金沢大学工学部跡地利活用検討委員会

開催日時 開催場所 金沢大学角間キャンパス 本部棟大会議室(6階) 平成23年 3月28日(月)10時30分~11時15分

次 第

囲 余

議題

〇 第1回及び第2回の検討委員会を踏まえての共通認識

〇 その街

閉会

《配布資料》

資型1 地域の現況・位置づけ、 第1回委員会での主な意見

資料2 第2回委員会での主な意見

資料 3 第1回及び第2回の検討委員会を踏まえての共通認識

《参考資料》 金沢大学工学部跡地 周辺エリア状況図

第3回 金沢大学工学部跡地利活用検討委員会

説明資料

平成 23 年 3 月 28 日

地域の現況・位置づけ

①**土地利用** 周辺は住宅地としての利用が主であり、 設等が立地する。 $\stackrel{\text{(i)}}{\mathbb{H}}$ 金沢湯涌福光線沿いには商業・ 業務施

②法規制
・用途地域指定:第二種中高層住居専用地域
・高度地区指定:15m以下
・高度地区指定:15m以下
・屋外広告物指定区域:第2種
・照明環境形成地域指定:住宅環境地域
・成お、周辺には「景観計画区域」「斜面緑地保全区域」「寺社風景保全区域」
「夜間景観形成区域」が分布する。

③人口動向

比率も低下している 人口は減少傾向で揺移しており、 率も低下している(特に男性)。 高齢化も進行している。 また、 20~24 帳の人口

④商業環境工学部移転後は、 飲食店等の撤退が相次ぎ、 賑
ちい
も
成下
して
いる。

⑤都市計画マスタープランでの位置づけ

(城東地域のまなびへののテー)

小立野台地と河岸段丘の起伏ある地形を活かした個性的な住宅地

(土地利用の方針)

金大工学部の跡地など、 未利用地の計画的かつ 有効的な利用を検討する

⑥歴史的背景 大正9年創立の金沢高等工業学校に始まる長い伝統と歴史を有し、平成 17 年8月の角間 キャンパスへの移転完了まで、当地に立地する。

火火 **讨** での言な順思

|公共的な土地利用

- 公共的な利用を中心に考えるという方向は良く、その公共的には、 医療や保健、 福祉のような民営のものも含むと思う
- まとまった形での土地利用を図ることが非常に重要であり、かつ、 かなりの規模であることから、公共が強く関わりながらやっていくことが必要
- 公共が関われる文教地区としての土地活用策が今回の検討にあたっての重要な視点の一つになってくるという認識を持っている。
- 公共が関わる事業として有効な活用、計画的な活用について、 検討したい。

■文教地区に相応しい歴史性を活かした整備

- 防災面や住宅地としての交通ネットワークなどを含めて、 具体的な施設や方向を意見交換していきたい。
- 今の美大を基礎にして、 もっと広く芸術や音楽を入れた総合芸術大学ができないか。
- 地元の要望では、「<u>図書館</u>」という意見が最も多く、工学部跡地ということから工学に関連したものを中心とした「<u>体験型の科学館</u>」 という意見がある。
- 美大を核とした総合芸術大学の誘致は、基本的な方向性に合っていると思うが、一方で美大の跡地がどうなるのかという問題がある。
- 工芸等も含めて、 それを産業に立ち上げていきたいという方向性があり、文教地区の延長線上で金沢の独自性を、 この新しい産業と結びつけていく ような形で、 このエリアの作り方を検討する余
- 科学館のようなものが県内にあればと以前から思っており、 この機会に調査、 研究を加えてみることも意味がある。

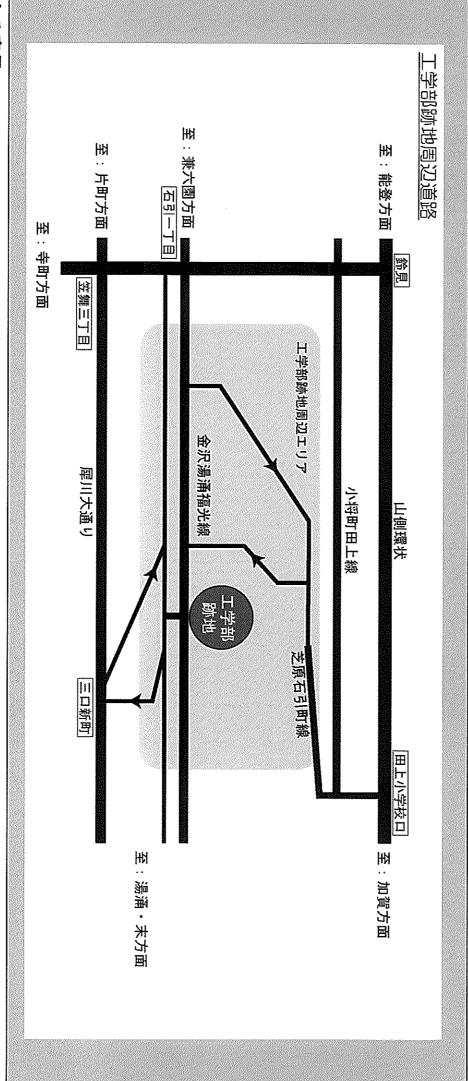
周辺環境の改善

- 歴史を積んできたエリアであり、 それを下敷きにしながら、 生かせるものは生かしながら、 継続した環境を作っていくという姿勢が必要と感じている。
- 小立野台地は、 山側幹線との関係が途切れており、 アクセス道路の検討は重要なことと思う。 併せて、街区としての道路の在の方、緑地の在の方等を含めて取り組む必要がある。
- 田上地区~小立野~雪見橋をつなぐ道路については、 高低差が大きく 技術的に非常に難しい。 跡地に公共的な施設を整備するに当たっては、 がまる の必要性はみえないと思われる
- 8haは非常に大きな規模であり、居住環境を含めてこのエリアを整えていく手掛かりの一つにする必要があると感じる。
- 災害対応の避難場所としては、 緑地などを核施設と一体的に整備してはどうか。

第2回委員会での主な意見

■周辺道路網のあり方に関する意見

- ・地形的な制約が非常に強く、新規の広域的な幹線道路の計画・建設は困難である。
- 工学部跡地周辺は、住宅地としての開発が進んできたが、道路ネットワークの形成が非常に不十分であり、 工学部跡地利用の中で解消 に向けて取り組む必要がある。
- ・小立野台地と浅野川、犀川と連絡する道路を付けることは、技術的かつ物理的に非常に困難。
- このエリアは建て込んだ状況にあり、生活面、防災的な面を含めて道路整備等を検討していく余地がある。
- 田上橋から湯涌福光線へ出るルートは狭隘な道路で危険な状態となっている。工学部跡地の利活用による横断的な道路が必要になって у 89
- 工学部跡地の利活用の問題もあるが、周辺公共施設へのアクセスをどう考えるかということも大変大事なことだと思う。
- ・工学部跡地の議論が、周辺道路のあり方に影響すると思う。
- 山側環状から来るときに、 現実的にどう抜けているのか分からない。<u>跡地利用の中で道路改良が出来るのか検討</u>する余地がある。



■跡地利活用のあり方に関する意見

- ・単独で独立的な施設というよりも、市民が利用する複合的なセンターが考えられる。
- ・広域的な防災機能の充実についても、この機会を利用して検討していく必要がある。
- ・第1回の意見を下地にしながら、どれが現実的に可能性を持っているか詰めていけばいい。
- が、回り返れで、過ぎつながり、これが光米型でも服用です。ファインのであるである。 防災機能としては、避難場所としての広場だけではなく、災害に強い公共的な建物も考えて欲しい。

第1回及び第2回の検討委員会を踏まえての共通認識

上学部跡地の利済用方針

・ 工学部跡地は、文教地区に相応しい公共が関わる利活用を図るべきである。

(E)

具体の利活用については、現時点では何らかのイメージを委員会として持つに は至っていない。

国は道路路のおりたけ

 $\langle \rangle$

- 小立野台地と犀川大通り、小将町田上線、山側環状と連絡する道路の新設は、 困難である。
- 山側環状から工学部跡地へのアクセスの改善に向けた方策を、検討すべきである。

